

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2016年36週 (9月1週 9/5~9/11)

2016年8月報

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、梅毒、麻しん、クリミア・コンゴ出血熱に係る注意喚起、蚊媒介感染症に関する注意喚起

定点医療機関コメント

感染性胃腸炎、マイコプラズマ感染症、流行性耳下腺炎、A群溶血性レンサ球菌感染症、咽頭結膜熱等

全数把握感染症発生状況 ()内は件数。

結核(41)、腸管出血性大腸菌感染症(9)、E型肝炎(1)、A型肝炎(1)、デング熱(1)、アメーバ赤痢(1)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)、侵襲性髄膜炎菌感染症(2)、侵襲性肺炎球菌感染症(1)、梅毒(10)

2016年8月報

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

トピックス

流行性耳下腺炎(図1)

流行性耳下腺炎は、ムンプス、おたふくかぜとも呼ばれ、最も多い合併症として髄膜炎があり、学校保健安全法(第2種感染症)で出席停止期間が定められています。

36週の定点当たり報告数は0.85、35週121人 36週154人(1.27倍)です。

流行性角結膜炎(図2)

36週の定点当たり報告数は1.03、35週39人 36週36人(0.92倍)です。

梅毒(図3)

2016年36週までの累積報告数(診断週集計、9月14日現在)は172件(男130件、女42件)です。2015年36週までの累積報告数は68件(男55件、女13件)、2015年総報告数は122件(男92件、女30件、うち先天梅毒1件)でした。

全国の2016年35週までの累積報告数は2,876件です(2015年総報告数は2,697件)。

麻しん

愛知県の2016年報告数は9月14日現在1件、2015年は報告がありませんでした。全国の2016年35週までの累積報告数は82件です(2015年総報告数は35件)。

【参考ページ】麻しん及び風しんの定期接種(第2期)対象者に対する積極的な勧奨等について(厚生労働省)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/mashin160901.pdf>

推定感染地域が共通の場所と考えられた麻しん報告例について(国立感染症研究所)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/655-disease-based/ma/measles/idsc/6722-20160902.html>

麻しん患者調査事業を実施しています

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html>

クリミア・コンゴ出血熱に係る注意喚起について

スペインにおいて、西ヨーロッパ初の国内感染例が確認されました。

【参考ページ】

クリミア・コンゴ出血熱に係る注意喚起について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Keinkoukyoku/0000135577.pdf>

蚊媒介感染症に関する注意喚起について

【参考ページ】

台湾CDCから連絡のあったジカウイルス感染症の発生について(厚生労働省)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/zika160912.pdf>

ジカウイルス感染症患者(輸入症例)の発生について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000136395.html>

注意すべき蚊による感染症 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/mosquito.html>

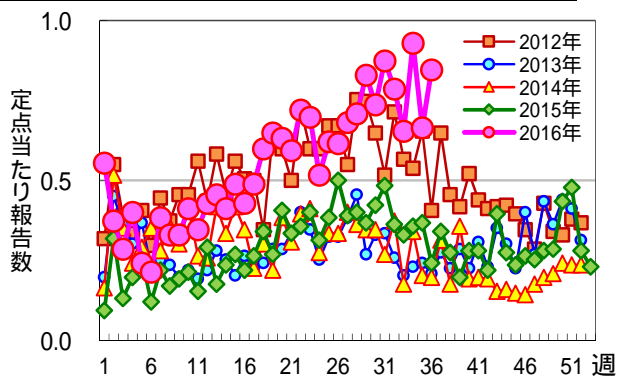


図1 流行性耳下腺炎

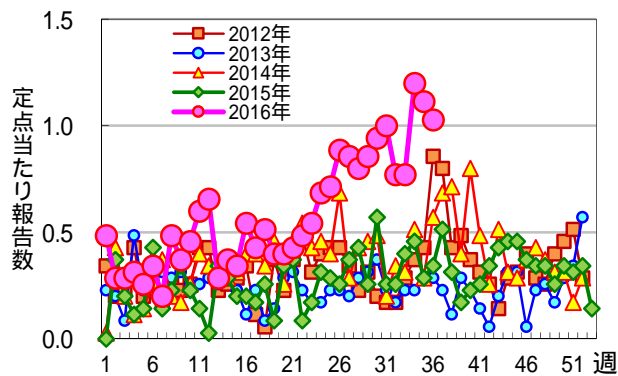


図2 流行性角結膜炎

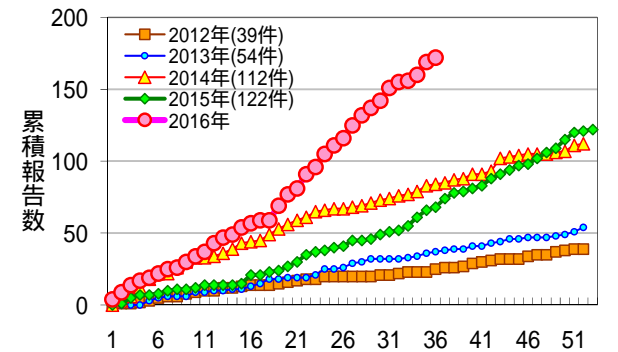


図3 梅毒の累積報告数

(愛知県、2012年-2016年、2016年9月14日現在)

定点医療機関コメント(名古屋市除く)

尾張西部地区

先週分から サルモネラO7 群検出 【一宮市 あさのこどもクリニック】 サルモネラO4 1名 A群溶連菌2名で感染症は落ちついています。 【犬山市 武内医院】 感染症少なくおちついています。 【江南市 みやぐちこどもクリニック】	アデノ感染症目立ちます。 RSV 感染 ヒトメタニューモ感染あり ムンプス続発中 【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】 おたふくがまた9件と増えました。 【扶桑町 医療法人 tsukushi つくしこどもクリニック】 溶連菌散発です。 【清須市 丹羽医院】
---	--

尾張東部地区

ヘルパンギーナ減少しました。 咽頭結膜熱(5歳女) 感染性胃腸炎と思われる症例が少し目立ちました。 【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】 マイコプラズマが数人みえました。 【日進市 みやがわクリニック】 ムンプスは多いです。 夏かぜも散見されます。 【春日井市 春日井市民病院】	7歳女 マイコプラズマ 溶連菌、胃腸炎やや目立ちます。 【春日井市 朝宮こどもクリニック】 ムンプスがまだ多いです。 【小牧市 小牧市民病院】 マイコプラズマ肺炎がつづいています。 【小牧市 志水こどもクリニック】 感染性胃腸炎が多くなりました。 【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】 10歳女 マイコプラズマ 【大府市 まえはらこどもクリニック】
--	--

西三河地区

マイコプラズマ肺炎 6歳女 StrepA(+) 3歳女 【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】 サルモネラ 7歳男 マイコプラズマ 9歳男 6歳女 伝染性紅斑依然散発 【岡崎市 花田こどもクリニック】	4歳男 マイコプラズマ肺炎 【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】 7歳男 病原性大腸菌O18 1歳女 A型インフルエンザウイルス感染症 【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
---	--

東三河地区

咽頭結膜熱 6歳男 1名 【豊橋市 富安眼科】 サルモネラO4 0歳女 【豊川市 ささき小児科】	アデノウイルス 2名 カンピロバクター 3名 病原性大腸菌O6 1名 【蒲郡市 畑川クリニック】
---	---

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2016年9月14日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun160215.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2016年36週報告数			2016年総計(1～36週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	17	5	2	486	125	118
豊田市	1	1		49	13	13
豊橋市				53	10	21
岡崎市	2	1		42	16	11
一宮	3			101	34	21
瀬戸	1			81	16	27
半田	2	1	1	46	12	20
春日井	2		1	83	15	24
豊川				36	10	8
津島	3	1	1	78	13	33
西尾				17	4	3
江南	5	1	4	34	7	6
新城				8	5	2
知多	1			59	15	17
清須				28	14	3
衣浦東部	4	2		83	12	15
合計	41	12	9	1,284	321	342

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	豊橋市	23歳	女	8 / -	9 / 4	9 / 6	O157、VT1(+)
2	豊橋市	85歳	男	9 / 1	9 / 3	9 / 10	O157、VT1(+) VT2(+) HUS発症例
3	岡崎市	5歳	男	9 / 5	9 / 6	9 / 9	O血清型不明、VT1(+) VT2(+)
4	一宮	20歳	男	8 / 27	8 / 30	9 / 6	O157、VT2(+)
5	春日井	67歳	男	9 / 1	9 / 2	9 / 6	O157、VT1(+)
6	江南	59歳	女	9 / 5	9 / 5	9 / 7	O157、VT型不明
7	知多	61歳	女	- / -	9 / 5	9 / 5	O26、VT1(+) 無症状病原体保有者
8	知多	27歳	男	8 / 31	9 / 5	9 / 8	O157、VT1(+)
9	清須	57歳	女	8 / 30	8 / 31	9 / 6	O157、VT2(+)

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

E型肝炎（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域		
1	名古屋市	80歳	男	国内		

A型肝炎（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	豊田市	27歳	男	無	カンボディア

デング熱（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	春日井	44歳	男	デング熱	タイ

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	衣浦東部	56歳	男	腸管アメーバ症	不明	フィリピン

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域		
1	名古屋市	57歳	男	国内		

侵襲性髄膜炎菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	共同生活	推定感染地域
1	春日井	92歳	女	無	国内
2	江南	21歳	女	無	国内

侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	衣浦東部	67歳	女	無	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	49歳	男	早期顕症	性的接触	国内
2	名古屋市	53歳	男	早期顕症	性的接触	国内
3	豊田市	59歳	男	早期顕症	性的接触	国内
4	豊田市	35歳	女	早期顕症	性的接触	国内
5	豊田市	29歳	男	早期顕症	性的接触	国内
6	一宮	24歳	女	無症候	性的接触	国内
7	津島	47歳	男	早期顕症	性的接触	国内
8	西尾	37歳	男	無症候	性的接触	国内
9	西尾	89歳	女	無症候	不明	国内
10	衣浦東部	46歳	男	無症候	不明	国内

8月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況〔()は無症状病原体保有者再掲〕

2015～2016年に報告のあった 疾病名及び病型 ()内は全数把握対象疾病数	2016年8月			2016年	2015年		
	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>		
一類 (7) 発生報告なし	0	0	0	0	0		
二類 (7) 結核	119 (36)	54 (9)	173 (45)	1,239 (331)	1,683 (463)		
三類 (5) 細菌性赤痢	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (1)	6 (1)		
	28 (10)	10 (1)	38 (11)	102 (31)	98 (21)		
	腸管出血性大腸菌感染症						
腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)		
四類 (44) E型肝炎	0	1	1	3	8		
	A型肝炎	0	0	0	3	10	
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	1	
	ジカウイルス感染症*	0	0	0	2	-	
	チクングニア熱	2	0	2	3	0	
	つつが虫病	0	0	0	0	2	
	デング熱	3	0	3	15	17	
	日本紅斑熱	0	0	0	1	0	
	マラリア	0	0	0	0	2	
	ライム病	0	0	0	0	1	
	レジオネラ症	5	1	6	52	99	
	五類 (22) アメーバ赤痢	3	0	3	46	66	
		ウイルス性肝炎	0	0	0	4	15
		内訳	B型	0	0	0	3
その他			0	0	0	1	5
カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症		3	6	9	47	80	
急性脳炎		0	4	4	33	27	
クリプトスポリジウム症		0	0	0	0	1	
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1	2	9	8	
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		2	0	2	16	16	
後天性免疫不全症候群		3	4	7	60	107	
内訳		無症候性キャリア	0	2	2	40	60
		AIDS	3	2	5	18	43
		その他	0	0	0	2	4
ジアルジア症		0	0	0	1	4	
侵襲性インフルエンザ菌感染症		1	0	1	17	15	
侵襲性髄膜炎菌感染症		1	0	1	3	0	
侵襲性肺炎球菌感染症		4	2	6	99	161	
水痘(入院例に限る。)		1	0	1	8	17	
梅毒		17	10	27	169	122	
内訳		無症候	7	1	8	47	43
		早期顕症	10	8	18	115	71
		晩期顕症	0	1	1	7	7
	先天梅毒	0	0	0	0	1	
播種性クリプトコックス症	0	1	1	7	10		
破傷風	0	0	0	4	8		
風しん	0	0	0	18	13		
麻しん	0	1	1	1	0		
薬剤耐性 アシネトバクター感染症	0	0	0	1	0		
総計	193	95	288	1,970	2,599		

* 2016年2月15日に「ジカウイルス感染症」が四類感染症に追加されました。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2016年8月			2016年 累計		2015年 総計		
		愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県全体 合計		愛知県全体 合計		
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	男	30	45	75	578	1,014	855	1,501
		女	43	23	66	436		646	
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	17	10	27	162	427	224	601
		女	11	20	31	265		377	
	尖圭コンジローマ	男	7	5	12	138	209	217	328
		女	7	3	10	71		111	
淋菌感染症	男	13	29	42	299	349	489	565	
	女	4	1	5	50		76		
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		79	12	91	633		1,006	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		8	2	10	70		92	
	薬剤耐性緑膿菌感染症		0	0	0	0		1	

感染症の類型及び定義(感染症法)

2016年4月1日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症* (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症** (44疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症 (47疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスのよるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

* 2015年1月21日に「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)」及び「鳥インフルエンザ(H7N9)」が二類感染症に追加されました。

** 2016年2月15日に「ジカウイルス感染症」が四類感染症に追加されました。

